ようこそ

第　３　号
浄土真宗本願寺派
円　光　寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097－527－6916
FAX097－527－6949

20年が経ちました

（上）第20回
『わらしべ長者』
中学生スタッフ
（2003年）

（左）第1回
『泣いた赤おに』
仏青スタッフ
（1984年）

続けるということ

子ども報恩講は昭和五十九年に始まります。以来、毎年十一月二十六日の夜、近所の小学生ら子どもたちがお寺に集まって来ます。親鸞さまのご遺徳を偲んで、お勤めをし「ぜんざい」のお接待をいただきゲームをして楽しく過ごしますが、その第一回目から続けているのが人形劇の上演です。

当初は仏教青年会のメンバーが、今では水曜学校（子ども会）の卒業生がスタッフになって、二十回目になります。第一回の人形劇は『泣いた赤おに』でした。そして、今回は中学一年生八名で『わらしべ長者』を演じました。

自分たちで創意工夫し原作を脚色して、正直で働き者だが貧乏な主人公の太郎が、色んな人と出会う中で、持っていたわらがプチシルマ（肩凝り解消磁気）に、トリビアの金の脳に、そして馬にと、次々に変わり、最後は田圃をもらって長者に成るというあらすじです。

これが観衆の子どもたちに大受けでした。現代感覚というか、思いもつかない柔軟な発想が実に素晴らしく、見事な出来ばえでした。

去年まで観る側の子どもたちが、こんなにうまく出来るなんて…とまたまた感激。もう来年のことまで考えているといいますから、何とも頼もしく、本当に嬉しいことです。

この二十年の間には、子どもたちが段々と少なくなって、人形劇をお休みしようと思ったことが何度もありましたが、ちゃんと見ていてくれたんですね。思っていてくれたんですね。

続けていく中で、本当に大事なことが確かに確かに伝わっていくことを思います。仏さまのお育てを身をもって感じます。ありがたいことです。

お朝事『法話』より

昨日は高知の競馬場が大変賑わったといいます。百五連敗という記録を更新中のハルウララという競走馬に、有名な天才ジョッキーの武豊が騎乗するということで、日本全国から大勢のファンが押しかけたそうです。その結果は、十二頭走って十一着の惨敗でした。どんなに力のある騎手が乗っても、やはりこの馬の実力では勝てないということなのでしょうか。

それでも場内は大歓声だったそうです。勝負に勝って人気がでるというのではなく、逆に負けて一層人気が上がるというのですから不思議です。負けても負けても黙々と走り続けるハルウララの姿に、自らの人生を重ね合わせて共感するファンの心理がこうした現象を生んでいるといわれます。負けてしまえば馬券はただのゴミになりますが、何でもその馬券は交通安全のお守りとして皆さん大切に持ち帰るそうです。絶対に(車に)当たらないということらしいです。

「人生勝ち組」という言葉があるそうです。何をもってその人の人生を勝ちとか負けとかいうのでしょうか。いつまでも健康で長生きして、自分の思い通りに生きて家庭円満で全てが良しという人生なのでしょうか。しかし、こうしたものの見方では最後の最後は皆な負け組になってしまいます。生老病死のいのちを生きる私たちです。どんな人も例外なく死んでいかなければなりません。老いる中で病む中で嫌でもこの身このままの現実と向き合って生きていかねばなりません。

「駄目りゃこりゃ」は先日亡くなったドリフターズのいかりや長介さんの有名なギャグですが、「駄目りゃこりゃ」と言いながら、笑いの中にも何か相手を思いやるあたたかい心くばりを感じたものです。

人間誰しも百%完璧な人間はいません。駄目なところをたくさん持ち合わせているお互いであると共感していくところに、私たちは人間らしい心の通い合うあたたかさを思います。

私たちの阿弥陀さまはこの私が完璧な人間だから救うてくださるのではなく、何一つすえ通ったことができないこの私のことが心配で心配で、いつも付いて離れずすくい取っていこうと立ち上がりおはたらきくださっています。「わが名を称えてくれよ。必ず浄土に生まれさせる」とのおよび声に支えられて、今日も一日お念仏申して生きていきたいと思います。

ではご一緒に、お念仏申しましょう。

(三月二十三日)

OBS(大分放送)ラジオで
仏さまのお話を聞きましょう
『西本願寺の時間』
毎週日曜 朝七時(10分間)

世々生々

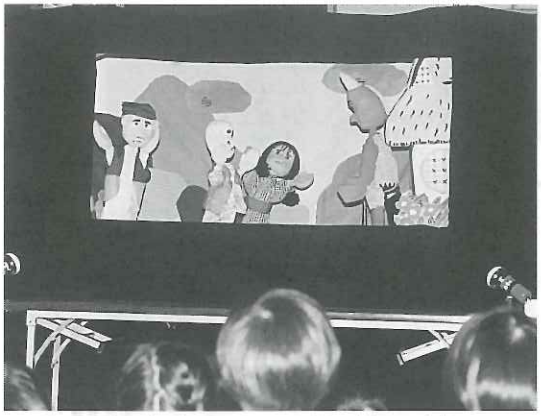
イラク戦争が始まって、この三月二十日で一年になりました。ブッシュ・アメリカ大統領は早々に戦闘終結(勝利)宣言をしましたが、今も連日のようにイラク国内外でテロがおき、スペインでは二百人ものテロ犠牲者が出て、その脅威は今や世界中に波及しています。そうした中、自衛隊がイラクに派遣されました。イラクの人道復興支援を目的に国際貢献を果たすといいます。◆自衛隊派遣には賛否両論があります。しかし自衛隊が既に派遣された今、私たちに危機迫る緊張感といったものが薄いのは何なのでしょうか。十分な議論がなされないままに、こうした事実が積み重ねられていくことの不気味さを思います。◆この一年、私の周囲も大きく揺れ続けました。私たちが日暮らしする地域の中で、寺が果たす役割とは何かということが厳しく問われます。葬式仏教といわれます。お釈迦さまのお心は果たして現代という社会に生きているのでしょうか。人々の苦悩に寄り添っていかれたお釈迦さまに学び、「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」と念仏の一道を歩まれた親鸞さまのみ跡を共々にご一緒させていただきたいと思います。

(住職)

人形劇二十年の歩み

人形劇といって、全くの初心者ばかりの出発でした。第一回の『泣いた赤おに』は脚本から人形、舞台一式までそっくりそのままお借りしての公演でした。何から何まで摂受定信さん（中津市光楽寺）にお世話になりました。中津まで出かけ実際に人形劇を観て、人形の使い方や体の動かし方など基礎の基礎から教えていただきました。

急あつらえの未熟な人形劇でしたが、初めての試みで珍しいこともあって本堂いっぱいの人人で大いに盛り上がりました。子どもたちの歓声に、しびれるくらい感動しました。



『泣いた赤おに』の一場面（1991年）

第10回『わらしべ長者』スタッフ（1993年）

第二回、三回はペープサートと紙芝居でしたが、第四回目から本格的に手作りの人形劇をということで、神力一道さん（宇佐市長安寺）に人形作りを一から教わり、自分たちの人形で『泣いた赤おに』を再演しました。そして、より本格的にということで東光爾英さん（佐賀関町徳応寺）に熱いご指導をいただき『ガンダーラの金の鳥』を演じました。めちゃくちゃ緊張して開演前にお酒を飲んで勢いをつけたというエピソードが残っています。『おじいさんのこぶ』では当時大流行した「おどるポンポコリン」を観衆の子どもたちと感激の大合唱になりました。

当初の仏青のメンバーも結婚などで段々と足が遠のき、十回目頃からは子ども会の卒業生の中高生を中心にスタッフを組んで今日までに至っています。

懐かしいメンバーとこれまでの人形劇のタイトルを記します。

幸修一、菅辰生、若杉秋好、藤並晃照、川村雄一、橋本孝幸、藤並智、藤並教恵、有友英次、一ノ宮淳則、岩崎明美、野口ゆかり、若杉美喜子、早川理恵、岸田由佳、三浦和子、岩崎治雄、三浦大介、河村路子、三浦ちはる、菅しのぶ、古野一秀、吉野幸代、田仲由美子、上野丈二、古野順子、古野恵子、江口智子、佐藤麻衣、桜井孝志、藤並大智、上野大介、平野悟志、池永樹哉、江口愛子、三浦理恵、三浦正男、藤並広海、池永昭彦、河村祐輝、工藤祐史、山村かおり、三浦陽子、桜井江莉子、堀夏美、菅珠江、中野陽太、若杉康嗣、藤並一心（ほぼ年齢順、敬称略）

これからも人形劇を続けます。ご支援よろしくお願い致します。

スタッフトレーナー

人形劇「てらこざ」年譜

●年●	●タイトル●
①S.59	泣いた赤おに
②S.60	ペープサート「おしょうさんとやまんば」
③S.61	紙芝居「しんらんさま」
④S.62	泣いた赤おに
⑤S.63	森の王者ターザン
⑥H.1	ガンダーラの金の鳥
⑦H.2	おじいさんのこぶ
⑧H.3	泣いた赤おに
⑨H.4	おしょうさんとやまんば
⑩H.5	わらしべ長者
⑪H.6	泣いた赤おに
⑫H.7	おじいさんのこぶ
⑬H.8	ペープサート「さる地蔵」
⑭H.9	かさ地蔵
⑮H.10	王様の耳はロバの耳
⑯H.11	おしょうさんとやまんば
⑰H.12	森の王者ターザン
⑱H.13	おじいさんのこぶ
⑲H.14	花さかじいさん
⑳H.15	わらしべ長者

お浄土への人生シリーズ『同行さん』③

昨年五月の円光寺仏教婦人会総会で役員改選があり、十二年間会長職を務められた岸田シズエさんが退任されました。

岸田さんは「しーちゃん」の愛称で誰からも慕われています。趣味もお茶やお花など多才で、中でもちぎり絵は玄人はだしで毎年三佐校区の文化祭に出品され喜ばれています。

お寺のすぐ近くの岸田家に嫁いで若い頃からお寺に出入りし、本堂新築を縁に昭和五十二年から始まったお朝事には、最初からずっと毎日お参りされています。お寺にはなくてはならない存在で、何かにつけて「岸田さん、岸田さん」と声をかけますが、「はい、はい」と嫌な顔一つされずにお手伝いしてくださいます。本当に頭の下がる思いです。

いつも自然体そのものの謙虚な人柄は、周囲の私たちをあたたかくしてくれます。お念仏が確かに確かにはたらいていてくださる姿だと有り難く思います。どうぞこれからもお寺にお参りして、私たちにいろんなことを教えてください。ありがとうございました。

岸田さん(中央)を囲んで仏婦新三役の皆さん

円光寺に、いらっしゃい!!

赤、白、黄色…どの花見てもきれいだな!

今、わが家の小さな花壇は、いろんな花でにぎわっています。お寺の行事等で来られる方々も、その花を見て「きれいやな」「これ何ていう花かな」と、会話がはずみます。自分が楽しみたいと始めたささいなガーデニングですが、今では皆さんに喜んでもらえて大変嬉しく思います。最近では「これ植えてみて」「めずらしい花があったから」と、一つまた一つと新顔が仲間入りしています。

ところで、枯れてなくなったものと思っていたものが、時期がくれば「今年も会えたね」と元気に顔をのぞかせてくれます。こんなとき花と同様にこの私も、今ここに生かされていた、「ようこそ、ようこそ」と感激してしまいます。ちょっと前までこんなこと思わなかったのに、歳ですかね…。

「浄華山円光寺」。私はこの山号が大いに気に入っています。今お寺では、たくさんのきれいな花、そしてお法の華が咲いています。どうぞお花見に来てください。

(坊守)

お花の中でお茶しませんか

『よろこび金庫』

喜びの浄財を次の方よりお寄せいただきました。誠にありがとうございました。(敬称略)

○三浦純子(結　婚)
○藤並大智(大学入学)
○藤並一心(中学進学)
○志水信雄(孫の就職)

あとがき

朝の連続テレビ『てるてる家族』を観ていました。昭和三十年から四十年代にかけて大阪を舞台にしたドラマですが、ちょうど私の学生時代と重なり、劇中に歌われる当時の流行歌や写真が懐かしく楽しみでした。

大学の時、歌声喫茶がありました。今はカラオケですが、学生服に下駄をはき髭をのばした長髪で仲間と通いました。コーヒーを飲みオルガンに合わせて皆なで一緒に歌ったものです。「夏が来れば思い出すはるかな尾瀬…」と。前を向いて純粋に人生を語り合ったりもしました。あたたかい思い出です。

歌声喫茶のようなお寺を想います。阿弥陀さまの大きなお慈悲に抱かれて、ゆっくりゆったりと皆さん一緒に仏さまのお話を聞かせていただきましょう。